

4消防署で指揮隊が運用を開始しました!



消防長新任研修で現場指揮訓練を行う消防隊員 (4/27 三重県消防学校にて)

昨今、消防は複雑・多様化する災害態様に的確に対応するための警防体制、救助体制、予防体制、救急体制の充実強化など、各分野において増大するニーズに対応する必要性が高まってきています。また、わが国が直面する大規模な地震等の自然災害やテロ災害、武力攻撃災害等の新たな事象に対応するための体制整備が強く求められています。

その中で平成十七年に国の消防力の整備指針で、「指揮隊の配置の基準」が示されました。これは、近年、災害現場においての消防職員の殉職事案が続いており、災害現場においては指揮責任者が高度な情報収集・判断のもと、組織的で厳格な指揮体制を構築し、

各隊員の安全の確保や円滑・効果的な警防活動の遂行の観点からのものです。

平成十七年度からは、三重県消防学校でも新任消防長研修のカリキュラムの中で現場活動指揮訓練が取り入れられ、平成十九年四月二十七日には、同消防学校において、新任消防長をはじめ、指揮隊(松阪地区広域消防組合消防本部)、消防隊(桑名市消防本部)、救助隊(津市消防本部)、仮想隊(学校教官)が参加して本番さながらに行われました。

訓練では、仮想隊による突発的な事象の発生報告に、指揮隊は刻々と変化していく災害現場で様々な情報を入手しながら、消防隊等に対する的確・迅速な指揮を展開しました。

当消防本部でも、本年四月一日から、管内の四消防署(中消防署・北消防署・久居消防署・白山消防署)に指揮隊を設置して、消防活動中の隊員の安全管理、各種情報の収集、現場管理、広報対応などを併せて行い災害現場を統括し、早期の災害の終息に全力を尽くしています。

消防情報 津消防タイムズなど消防関係ページは、津市ホームページ(アドレスは下記に表示)のトップページ生活情報の消防情報からご覧下さい。

地震災害などに備え 一志消防団が 上級救命講習を受講 一志分署

自助共助の 大切さを再確認!

平成十九年四月十五日に発生した三重県中部を震源とする地震により、津市内においても、民家の土塀の一部が崩壊したり、水道管が破裂するなどの被害を受けました。

一志消防団(馬場康雄団長)においても、大地震の発生が危惧されている中、自助・共助の重要性を再確認するため、同年五月十三日に一志中央公民館において、久居消防署一志分署員の指導のもと、二十名の消防団員を対象に上級救命講習会が開催されました。



ただ今、心肺蘇生法、実施中

講習会では心肺蘇生法や大出血時の止血、AED取扱い方法、傷病者の体位管理・骨折時の副子による固定方法・熱傷の手当て・搬送方法などを正しく理解することを目標に行われました。

参加した団員は、災害がいつ発生しても、迅速・的確に対応できるよう真剣な表情で実技訓練等に励んでいました。

「消防救助技術東海地区指導会」に向けて 救助技術訓練開始式を実施



野田消防長に決意表明をする岡田消防士

「訓練開始式で、野田重門消防長は、「人命を優先する救助訓練では、隊員間のチームワークが大切で、体調・安全管理に万全を期して頑張ってください。」と講評があり、隊員たちは決意を新たにしました。

災害現場で救助活動を行うには、強い精神力と強靭な体力が必要となるため、救助隊員たちは日頃から厳しい訓練に励んでいます。

こうした訓練の成果を披露し、その技術を競い合うことを目的に、毎年七月に消防救助技術指導会が開催されています。

今年は、七月二十五日に県消防学校において東海地区指導会、八月二十一日には東京都で全国大会が行われます。指導会は陸上の部八種目、水上の部六種目で競われ、東海地区指導会に当消防本部から、陸上の部で障害突破(五名)、ロープリッジ救助(四名)、ほふく救出(三名)、水上の部で複合検索(一名)、水中検索救助(四名)の隊員が出場します。